2013年8月
Church School News
CSニュース 2

サマーバイブルスクール 2013

日　時　2013 年 7 月 31 日(水)
テーマ　「シャローム」　～　世界のみんなに平和があるように～
聖　句　イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。
父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」　ヨハネによる福音書 20 章 21 節

「シャローム」は、日常の挨拶です。ヘブライ語で「平安」「平和」とは、神さまが共におられることです。
開会礼拝の後、それぞれの学年が「シャローム」について考え合いました。そして、交わり、恵まれた豊かな時を過ごしました。
参加者　こども男 21 人　女　25 人　おとな　男 2 人　女 25 人　　計 73 人

ひつじグループ(幼稚科)

平和ってなんだろう？…ひつじグループにとっては少し難しいテーマでしたが、まず、隣りにいる人、子どもたちにとって一番身近な友だちのことから考えることにしました。
仲良くできるかな？　ケンカしたら許してあげられるかな？謝ることができるかな？
友だちを大切に思う気持ちは大切だね。
それがイエスさまが教えてくれたことだと子どもたちと話し合いました。そして、まだ会ったことのないお友だち。東日本大震災で悲しく、苦しい思いをした人たちのことを考えました。『忘れないでお祈りするよ！』『いつか会えるといいな』『お外でたくさんあそべるといいね』
そして、そのメッセージをプレゼントを作り、伝えることにしました。
子どもたちは、被災地のことを覚え丁寧に、心を込めて、風鈴を作りました。

サムエルグループ(小学校 1,2 年生)

サムエルグループでは、「シャローム、平和って何だろう？」と、みんなで考えるところからスタートしました。
「平和」とは幸せなこと、みんなが仲良しなこと、戦争がないこと、心が穏やかなことなど、さまざまな意見がでました。その中で戦争がないことに着目し、「ちぃちゃんのかげおくり」という絵本を読みました。絵本を通して戦争の悲惨さを知り、当時と今を比較し、平和を再確認しました。
次に、私たちが平和を広げるためには何ができるのかを考えました。
いま日本では戦争はしていませんが、地震や原発で困っている人がいます。その人たちに、「いつまでも忘れないよ」「元気になりますように」「いつもイエスさまが共にいてくださるよ」という気持ちを込めた、栞を作ることにしました。貰った人が喜んでもらえるように、一人一人考え、工夫をして作りました。

オリーブグループ(小学校 3～5 年生)

「シャローム」「平和」とは、何だろう。笑顔でいること、仲良くすること…今こうして生活出来ること。私たちの毎日が当たり前なのではなく、いつでも神さまが共にいてくださっている平和であることに気がつきました。
たくさんの貧しい人に、献身的な働きにより、平和を広げたマザーテレサを通して本当の平和とは何か、自分たちに出来ることは何かを考えました。
「私たちは大きなことは出来ません。ただ小さなことを大きな愛でするだけです。」
周りの人に優しくすること、困っている人に手をさしのべること、当たり前にできるようでなかなかできない助け合い。勇気を出して自分にできることをしたい。マザーテレサの言葉は、子どもたちひとりひとりの心に響いたようです。人間は誰でも必要とされない人、愛されない人などいません。神さまは、愛されるために私たちをおつくりになったのです。そしていつでも大きな愛をもって共にいてくださいます。すべての人にシャロームを願い、「きみは、愛されるために生まれた」を歌いました。

マザーテレサ

マザーテレサは、１２歳の時に神さまに仕える仕事がしたいと思い、全てを捨てて家族を離れインドに渡り学校の先生をはじめたのです。道端に倒れている、飢えた人、裸の人、家のない人、病気の人、体の不自由な人、必要とされてない人、愛されていない人、誰からも世話されない人々のために、サリーを着て、出来ることからひとつひとつ始めたのです。
この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。人から見放され、「自分は誰からも必要とされていない」と感じる事なのです。私たちは大きなことは出来ません。ただ、小さなことを大きな愛でするだけです。
大切なのはどれだけたくさんの事をしたかではなく、どれだけ心を込めたかです

マザーテレサの祈り

「わたしたちの手を通して」
主よ、
わたしたちを、
貧困と飢えの中に生き、
そして死んでいく世界中の人々に
仕えるのにふさわしい者としてください。
わたしたちの手をとおして、
今日、
彼らの日々の糧をお与えください。
わたしたちの思いやりに満ちた愛によって、
彼らに平和と喜びをお与えください。

ノアグループ(小学校６年生)

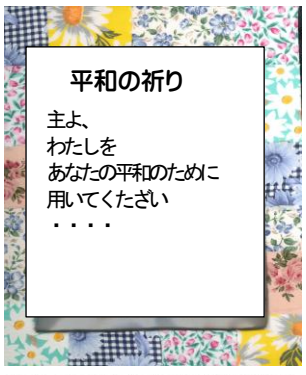
「平和の祈り」について考えました。
「平和の祈り」は聖フランシスコの祈りと言われますが、実際はフランシスコが作ったものではありません。けれども、フランシスコの祈りと言われるには、彼の生き方が示されています。資料と絵本『ともだちになった　フランシスコとオオカミ』を読み、彼の生涯や生き方について学びを深めました。
　フランシスコは
・キリストと同じように、貧しい姿になり謙遜に生きた。
・神さまがつくられたもの全てを愛し、大切にした。
・どんな生き物もみんな兄弟と呼び優しくし、動物たちにも神さまのことを伝えていた。
・悪いことをした者について、どうしてそれをしてしまったのか相手の側に立って理解しようとする。
平和の祈りは対照の形をとっています。マタイによる福音書５章１節～を読み、平和の祈りと照らし合わせて新約聖書の教えが元となっていることを学びました。
また、戦争を体験された大瀧先生からは、「もうあのような経験は絶対にしたくない」と強く思うこと。それは実際にその経験をしていなければ感じられないが、平和を考える上でそういう思いを風化させないことの大切さを学びました。

三木ひなた
　相手のことを知らないまま嫌だと思うのではなく、相手の心情と真剣に向き合うかどうかが大切だと思った。背景を意識して向き合うことでより深まることが分かった。
今、自分にできることは相手のことを知らないままにしないこと。相手を知るために努力したい。

木下　雄太
　フランシスコが動物たちに説教しているのは神さまが私たちに話してくれるのと似ているような気がした。怖い動物に説教をするのは心が強い。自分の服を貧しい人にあげたり、自分で教会を建て直したりしたことはとても勇気がいるし凄いと思う。自分が平和の使者になるには、フランシスコの生き方を倣い、動植物を大切に、心を感じ合って分かち合うことが大切だと思った。

久保　楓子
　神さまのおつくりになったもの全てを兄弟と呼び大切にして凄いと思った。絵本を読んで困っている人の気持ちになることの大切さを知った。これからは困っている人の気持ちになり、同じ立場で考え、その人の力になってあげられる人になりたい。まずは相手のことを知ることが大切だと思う。

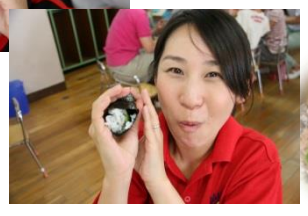
蓮本　南欧
　生きているものに兄弟と言って優しく接したから虫や鳥たちにもその優しさが伝わったのかなと思った。
フランシスコは自分の衣服を貧しい人にあげて自分が貧しくなり、お父さんにも縁を切られてしまった。しかし神さまに仕えてとても明るく生きていたので、お金持ちで生きるよりも良かったのかなと思った。絵本を読んで、カラスやヒバリもフランシスコのことが好きだったのかなと思った。



アンデレグループ

午前中は、みんなの元気の源になるよう心を込めて昼食の準備をしました。今年は、まきまきパーティーでしたが、大瀧先生がかんぴょうや椎茸の煮物、お肉の唐揚げなどたくさんのごちそうも用意してくださり、笑顔いっぱいの楽しいパーティーになりました。みんなが、おいしい！と言ってたくさん食べてくれたので、
アンデレのお母さんたちもうれしかったです。
午後は、「あしあと」という詩を通して学びの時を持ちました。伊藤直美先生が、この詩の作者や、この詩が世の中に出た経緯などを話してくださり、神さまは、私たちが苦しい時、つらい時、その悲しみごと私たちの全てを背負って一緒にいてくださるのだということを
改めて、心に覚えました。

開会礼拝



まきまきパーティー
　かんぴょう、ツナ、カイワレ、ソーセージ、椎茸、お肉にごぼう、梅ぼし　などなど…
まきまきしてたくさん食べました。
アボカドは醤油をつけたらマグロになった！

プライベートプールみたい

かき氷
イチゴ、メロン、レモン、ブルーハワイ、宇治…　ノアグループのお兄さん、お姉さんたちが作ってくれました。